

財団法人茨城県科学技術振興財団

[法人の概要]

平成17年7月1日現在

代表者名	理事長 江崎 玲於奈 (非常勤)	所管部(局)課	企画部企画課	
所在地	水戸市笠原町978番6	電話番号	029-301-2532	
ホームページURL	http://www.i-step.org/	E-mailアドレス	kikaku7@pref.ibaraki.lg.jp	
資本金(基本財産)	35,400 千円	設立年月日	平成元年10月30日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	34,700 千円	98.0 %
	2	日本ボンコート(株)	300 千円	0.8 %
	3	シバタグラス(株)	200 千円	0.6 %
	4	(株)鈴木製作所	200 千円	0.6 %
	5		千円	0.0 %
	その他	団体	千円	0.0 %
設立目的	(設立の沿革及び出資等県が関与している理由等を含め記載する。) 当財団は、民法第34条に基づき、本県における科学技術の基礎的創造的な研究開発の推進及び研究体制の強化を促進し、もって県内の科学技術の振興に寄与するとともに、県内産業の高度化を推進することを目的とし、平成元年に設立された法人である。			

[事業の概要]

事業名	平成17年度事業費	内容
事業1 研究開発奨励事業	23,943 千円	(実施する事業について、事業の目的・内容、公益性(県民への貢献度)等について記入する。) 日本全国においてナノテク分野を対象とする「江崎玲於奈賞」、茨城県内において科学技術全般を対象とする「つくば賞」・「つくば奨励賞」の授与する顕彰事業
事業2 霞ヶ浦水質浄化プロジェクト事業	34,819 千円	(実施する事業について、事業の目的・内容、公益性(県民への貢献度)等について記入する。) 主に霞ヶ浦の水質浄化を研究対象とした事業であり、つくば研究学園都市内の大学・研究機関・民間企業等が連携し、水質浄化技術の実用化研究等を行う。
事業3 つくば国際会議場管理運営事業	607,282 千円	(実施する事業について、事業の目的・内容、公益性(県民への貢献度)等について記入する。) つくば国際会議場の管理運営委託業務

[組織]

7月1日現在の人数	平成15年			平成16年			平成17年		
	県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB	
役員	常勤理事	1	1	1		1	2		1
	非常勤理事	8		9			8		
	常勤監事								
	非常勤監事	2		2			2		
	計	11	1	0	12	0	1	12	0
職員	管理職	2	2	2	2		2	2	
	一般職	21	10	18	9		15	7	
	臨時職員			3			1		
	嘱託職員	15		12			12		
	計	38	12	0	35	11	0	30	9
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数		
	1	3	6	7	17	45歳 10月	0年 10月		

[収支の状況]

財団法人茨城県科学技術振興財団

(単位:千円)

区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度
収 支 の 状 況	収入合計	1,060,309	1,738,730	861,018
	事業収入	1,055,253	1,720,473	851,758
	事業外収入	5,056	18,257	9,260
	支出合計	1,041,841	1,726,246	862,871
	事業支出	1,005,313	1,725,642	862,305
	事業外支出	36,528	604	566
	うち管理費	528	604	566
	うち人件費	233,728	182,288	164,501
	当期収支差額	18,468	12,484	-1,853
	正味財産増加額	187,074	967,302	127,362
	正味財産減少額	150,856	930,337	128,609
	当期正味財産増減額	54,686	49,449	-3,100
	前期繰越正味財産	482,543	537,229	586,678
期末正味財産	537,229	586,678	583,578	
財 産 の 状 況	資産	1,507,788	775,891	828,364
	流動資産	187,996	219,134	272,854
	固定資産	1,319,792	556,757	555,510
	負債	970,559	189,213	244,786
	流動負債	141,592	160,246	215,819
	うち短期借入金	0	0	29,000
	固定負債	828,967	28,967	28,967
	うち長期借入金	800,000	0	0
正味財産	537,229	586,678	583,578	

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度
財 的 関 与 状 況	補助金	13,009	10,133	10,692
	委託金	548,036	537,091	489,805
	貸付金	66,752	60,844	55,072
	計	627,797	608,068	555,569
	財的関与の割合(%)	53%	31%	58%
	損失補償・債務保証			

[平成16年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	①県補助金(同財団が行う科学技術講演会等への補助)②県補助金(研究開発奨励事業:つくば賞事業への補助金)③同財団が文部科学省・環境省より補助を受けて行っている事業に係る県の負担金(霞ヶ浦水質浄化プロジェクト:霞ヶ浦の水質浄化に関する研究)
委託金	①県委託金(つくばサイエンス・アカデミー運営委託:産業交流事業(つくばテクノロジーショーケース等))②つくば国際会議場管理運営事業委託金③コンベンション開催支援事業委託金(つくば国際会議場)
貸付金	①創造的企業創出支援融資資金借入金(預託原資)

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	3	8	37.5%
目的適合性	5	8	14	57.1%
組織運営の適正性	4	7	8	87.5%
健全性	10	0	40	0.0%
効率性	9	0	32	0.0%
合計	32	18	102	17.6%

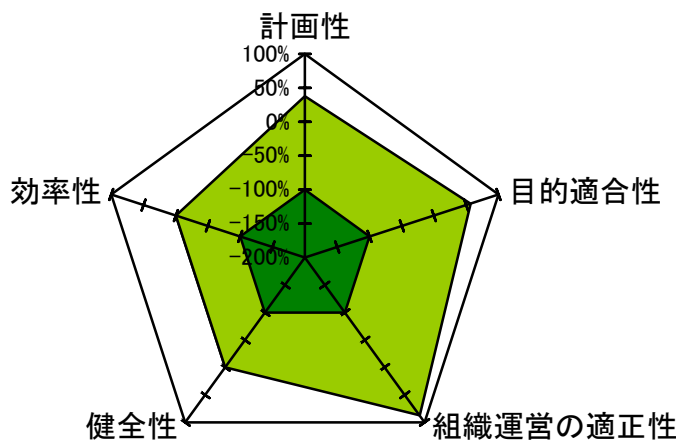
公益法人会計用

財団法人茨城県科学技術振興財団

警戒指標

--

経営評価レーダーチャート



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題, 対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
当財団の設立目的である県内科学技術及び産業の振興のため、長期的には、県が策定する計画・指針等に沿った運営を行うとともに、短期的には毎年、作成する事業及び予算計画にのっとり事業運営を心掛けている。	県内において優れた研究成果を挙げた研究者を表彰する「つくば賞」及び科学技術立県「いばらき」をPRするために、日本全国を対象とし、ナノテクノロジーの分野において世界的な研究成果を挙げた研究者を表彰する「江崎玲於奈賞」の2つの顕彰事業を実施するとともに、つくば国際会議場の管理運営を県より受託し、県内への科学技術関連の会議・学会の誘致に貢献するなど、県内科学技術及び産業の振興に寄与するという、当財団の事業目的に沿った事業運営を行っている。	当財団の事業は、企画課(H17から)、産業政策課、環境対策課(H16までは霞ヶ浦対策課)、新線・つくば調整課の4課がそれぞれ所管しているが、平成15年度より事務局内の連絡を密にするため理事会や決算前には、担当者会議を開催し、事務局内の情報共有を図っている。	予算計画に基づき、最大限の効果上げることを念頭に事業を実施している。16年度の収支赤字については、単発的で非常に効果の高い事業を、これまでの余剰金を使って、当財団の資金的余力の範囲内で実施したことによるものであり、当財団の健全性を低下させるものではない。借入金についても、国の補助金が概算払いを認めていないことから年度末につながる資金として借り入れているものであり、17年度当初に全額返済を済ませており、当財団の健全性は非常に高いものと言える。	職員数・人件費ともに年々減少しており、効率性は高まっているものと考えている。特につくば国際会議場管理運営事業においては、前年比で4千万円以上の経費削減を行っているが、受託事業であるため、これが収入の減少につながり、表面上の効率性が下がっているものである。
今後の事業展開の方向	現在、基金の大部分を利率の高い(3.41%)県債により運用しているが、今年度末にはこれが満期を迎えるため、その後の運用益収入の減少が懸念される。このため、事業の再編等を検討している。つくば国際会議場特別会計では県からの委託を受け、つくば国際会議場の管理運営業務を行ってきたが、同会議場については、18年度以降、指定管理者制度へ移行することになるため、今年度においては、この動きについての対応が必要となる。			

[法人を担当する課の意見]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
本県の科学技術施策推進の一翼を担う団体として、県が策定する計画・や指針に沿って、計画性高い事業を実施している。	設立以来の機関事業である「つくば賞」に加え、「江崎玲於奈賞」を設立することにより、県外に視野を広げて本県をPRするなど、その目的に適合した活動を積極的に行っている。	事務局機能を県庁内4課の職員が兼職で務めており、その組織体制及び人員面での強化が必要である。	借入金依存度が低く、健全性が保たれている。16年度の収支赤字についても、余剰金による効果的な事業運営がなされた結果であり、問題ないものと考ええる。ただし、金利低下に伴う運用益減少については早急の対応が必要となる。	人員・人件費の削減及び経費節減等、効率性を高めるための方策がとられている。
第三次行財政改革大綱に係る取組状況	推進事項		取組み状況	
	役員に複数の県職員が就任していることについて(企画部長:副理事長, 商工労働部長:理事)		財団の設立目的は、「科学技術振興」と「県内産業活性化」であり、本県において「科学技術」「産業振興」を所管する両部長が役員に就任することは、当財団にとって必要なことであると考えられる。	
法人担当課の意見	①事務局機能・組織体制の強化については、若干改善されているものの、依然として改善が必要である。②来年度以降の基金運用について、事業内容の見直しを行うとともに、県債に代わる効率的な運用方法を検討する必要がある。③今後とも企画・商工労働両部長が役員を務めることが望ましい。			

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">計画性</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">健全性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">効率性</div> </div>
総合的所見等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">概ね良好</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">改善の余地がある</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">緊急の改善措置が必要</div> </div>
	<p>当法人の本来の事業である顕彰事業として、これまでの「つくば賞」及び「つくば奨励賞」に加え、平成16年度から国内のナノテク部門の研究者等を対象にした「江崎玲於奈賞」を創設したところであり、事業の定着に努められたい。</p> <p>つくば国際会議場管理事業については指定管理者制度が導入されることや、霞ヶ浦水質浄化プロジェクト研究開発事業については事業が縮小方向にあることなど、当法人を取り巻く環境が変化することから、今後の事業展開のあり方や県関与のあり方について検討されたい。</p>
総合的所見等に係る対応	<p>顕彰事業、特に「江崎玲於奈賞」については、著名な研究者を審査員に迎えていることや国内外で非常に高い評価を受ける受賞者を輩出したことなどから、賞への評価及びその知名度は高く、国内トップクラスの賞としての地位を築きつつある。</p> <p>事業展開については、つくば国際会議場の指定管理者に、当財団を代表団体とする「つくばコンgresセンター」が選ばれ、幅広いノウハウを持つ民間企業との共同運営により、より効率的な管理運営を行っていくこととなり、霞ヶ浦水質浄化プロジェクトも、県霞ヶ浦環境科学センターとの連携による研究が継続されるなど、引き続き、当財団が本県の科学技術振興において果たす役割は大きい。</p> <p>今後とも、県との連携により積極的な事業展開を図っていくよう指導していく。</p>

< 財団法人茨城県科学技術振興財団 から県民のみなさまへ >

科学技術立県を掲げる本県の科学技術振興の一翼を担う財団として、今回の指導事項を参考とし、今後とも、本県の科学技術振興に努めてまいります。

平成18年2月 理事長 江崎玲於奈